

1490 | **メディア環境論**

3 単位（通信授業 1 単位、面接授業 2 単位）

白尾隆太郎教授、上原幸子教授、棚橋早苗講師、藪内新太講師

## 授業の概要と目標

「メディア環境論」では、まず「メディア」を広く捉え直し、身の回りのメディアによって何かしらのコミュニケーションが成立しているのは、それを支えている「メディア環境」が存在しているからだという事を理解する。

メディアを取り巻く環境としては、例えば社会体制や経済のしくみ・技術力・科学・歴史・思想・教育……等々があり、それらは相互に関係し合いながら、総体としてのメディア環境を形づくってきたと考えられる。この授業では、「メディア」をメディア環境まで含めて認識し直して考察する。

通信授業課題『メディアの解剖』では、メディアをひとつ取り上げ、そのメディアとメディア環境を考察・解剖・分析・考察し、ビジュアルブックとして表現する。

また、面接授業課題『メディアの発明』では、現在のメディア環境を踏まえた上で、自らの手で実際にメディアとメディア環境を作り、実践・提案をする。

面接授業の発表の場は、それぞれが発明したメディアの実験場である。その後、発表の場で何か起こり、何が伝わったのか・伝わらなかったのかをふりかえり、共有・検証・考察を試みる。

## 課題の概要

## ○通信授業課題

課題名 『メディアの解剖』

身近なモノの中から「メディア」として捉え直す対象を1つ決め、その「メディア環境」がどのように成り立っているのかを分析し、その解剖を試みる。

制作物は [メディア解剖図鑑]。

[メディア解剖図鑑] あなたの「メディアの解剖」の過程と成果が分かりやすく、目で見て分かるように、ビジュアル表現を中心に編集・デザインを行って冊子のかたちにとまとめた作品。

## ○面接授業課題

課題名 『メディアの発明』

「メディアで遊ぼう!」をキーワードに、グループ単位でフィールドワークを行いながら、「メディア環境」を多角的に考察していく。プレゼンテーションでは「新たなメディア」の提案を行う。授業での共通テーマを「水」とし、「吉祥寺周辺」を考察のフィールドとする。

## 授業計画

## [通信授業]

教科書と学習指導書を読み、学習指導書に沿って [メディア解剖図鑑] を作成し、提出。

## [面接授業]

1 日目：オリエンテーション、関係づくりワークショップなど

2 日目以降：フィールドワーク、グループ制作

4 日目：発表、講評、ふりかえり

① オンラインプラス [中間] —BBS 上での中間アドバイス

Web キャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

## 成績評価の方法

面接授業と通信授業課題の総合評価とする。

[通信授業] 提出された作品の総合評価とする。

[面接授業] 発表とふりかえりを評価の基本とし、制作過程や出席状況も評価の対象となる。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 3 年次

[履修条件] 「グラフィックデザイン基礎 I・II」または「情報システム基礎 I・II」の単位を修得していること（デザイン情報学科 3 年次編入学生を除く）。

[備考] デザイン情報学科各コース 3 年次必修科目。

オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

## 教材等

教科書：若林直樹監修『メディア環境論』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

学習指導書：『メディア環境論 2019 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019 年）

## その他

面接授業について：学外での見学と取材、およびグループワークを行う。

1500

## マルチメディア表現

3単位（通信授業1単位、面接授業2単位）

白石学教授、清水恒平准教授、角めぐみ講師

## 授業の概要と目標

現在のマルチメディアの意味を再考することからはじめ、ネットワーク技術、ソーシャルメディア等の現状を把握し、その問題点と可能性を考察する。その上でそれらの技術を応用したマルチメディアコンテンツの企画と提案を行う。

面接授業はグループワークを行う。リサーチやフィールドワーク、課題発見、アイデア発想のプロセスを通して、マルチメディアの特性や可能性を探りながら、解決につながるマルチメディアコンテンツを企画する。利用シーンを想定した、試作品の制作やプレゼンテーションにも取り組む。

テクノロジーは日々進化している。国内外含め、どんなサービスが生まれているのかアンテナを張っておこう。また、普段から身近な問題に目を向け、なぜその問題が生じているのか、どんな課題が潜んでいるのかを考えてみてほしい。

## 課題の概要

## ○面接授業課題

「グループワークによるマルチメディアコンテンツの企画と提案」

提示されたテーマにおける課題を見つけ、解決につながるマルチメディアコンテンツを企画する。また、試作品を制作し、プレゼンテーションを行う。

## ○通信授業課題

「任意のテーマによるマルチメディアコンテンツの企画と提案」

自分自身の問題意識からテーマを設定し、課題を見つけ、解決につながるマルチメディアコンテンツを企画書にまとめる。

\*課題については、学習指導書『マルチメディア表現 2019年度』を必ず参照すること。

## 授業計画

## [面接授業]

第1日 オリエンテーション、企画検討

第2日 企画検討、企画案発表

第3日 試作品制作、プレゼンテーション準備

第4日 試作品制作、プレゼンテーション準備、プレゼンテーション、講評

①P オンラインプラス [準備] ー面接授業事前説明動画配信

Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

①P オンラインプラス [中間] ーBBS上での中間アドバイス

Web キャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作中の課題に対して中間アドバイスをを行う。

## [通信授業]

教科書『マルチメディアを考える』の全章を範囲とする。

## 成績評価の方法

提出された課題作品によって評価を行うものとする。面接授業においては出席状況も評価の対象となる。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 3年次

[履修条件] 「グラフィックデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」または「情報システム基礎Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（デザイン情報学科3年次編入学生を除く）。

[備 考] デザイン情報学科各コース3年次必修科目。

下記の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。

- ・Macintosh または Windows で、少なくとも 300 万画素画像をストレスなく処理できるもの。

- ・画像の編集作業ができるソフトウェア（Adobe Photoshop など）

- ・企画書作成のためのページレイアウト用ソフトウェア（Adobe Illustrator、InDesign など）

- ・コンテンツのサンプルを Web として作成するためのソフトウェア（テキストエディタあるいは Web ページ作成ソフト）

- ・指定された Web サイトにアクセスできること。

## 教材等

教科書：清水恒平『マルチメディアを考える』（武蔵野美術大学出版局 2016年）

学習指導書：『マルチメディア表現 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

## その他

面接授業について：グループワーク・発表を行う。

1880  
1890

## 卒業制作

6単位（通信授業4単位、面接授業2単位）

白尾隆太郎教授、上原幸子教授、清水恒平准教授、藪内新太講師

## 授業の概要と目標

これまでにコミュニケーションデザインコース、デザインシステムコースで学習してきた内容の集大成として、各自がテーマを設定して研究を行い、作品としてまとめる。

この「卒業制作」という科目は、与えられた課題にそって作品を制作するという科目ではない。これまで学習してきた科目および各自のバックグラウンドの中からテーマを各自が設定し、作品を制作する過程において研究の方法を学び、個々の知識や技術をあわせて利用する方法を考え、その結果として、各自がこの学科を卒業するのに相応しい作品を生み出すことが目標である。

「卒業制作」は、年度の当初から計画し、4年次の各コースの専門科目も「卒業制作」を念頭に置きながら受講する方が良いだろう。学生とは電子メール・面接指導などを用いて意見の交換や助言、情報提供を行う。

「卒業制作」の提出物としては多様な形態が考えられる。グラフィックデザイン、コミュニケーションデザイン、メディアデザイン、情報システム、情報通信ネットワーク、データベースなどの各分野を俯瞰し、各自のテーマをまとめるのにふさわしい形態を模索し、制作することが期待される。

## 課題の概要

各自が考えるデザイン情報学の領域のテーマを自由に設定し、担当教員の指導の下に研究し、制作を行う。テーマによっては、他の科目の教員に指導を受けることも可能である。教員や他の学生とのディスカッション、資料・事例調査などを通して各自のテーマや作品を検討し、質の高い研究、制作を行う方法を学びながら、その最終到達点としての作品を提出する。個人による制作を原則とする。

\*課題については、学習指導書『卒業制作 2019年度』を必ず参照すること。

## 授業計画

## [面接授業]

各自のテーマ・作品案などに関して計画書を用意し、プレゼンテーションを行う。教員、他の学生とディスカッションをし、また、テーマ・作品の具体化に関して教員からの個別指導を受ける。

OLP オンラインプラス [準備]—BBS上での計画案相談

面接授業の機会を生かすために、ネット上で計画案の相談を行う。

OLP オンラインプラス [中間]—BBS上での中間アドバイス

制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

## [通信授業]

テーマを決定するまでに文献・資料・事例を調査するのはもちろんのこと、オンラインでテーマを共有し担当教員と相談しながら、決定したテーマを作品としてまとめる。既修の技術や知識を総合し、場合によっては新たに必要な技術を習得しながら、最終提出物を制作する。

## 成績評価の方法

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作提出作品、全体講評の総合評価とする。

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 4年次

[履修条件] 以下のすべての条件を満たすこと。

- ・デザイン情報学科各コースに在籍していること。
- ・デザイン情報学科各コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051の特例を除く）。
- ・デザイン情報学科各コース4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

[備 考] デザイン情報学科各コース4年次必修科目

オンラインプラス（Web上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

## 教材等

学習指導書：『卒業制作 2019年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2019年）

## その他

卒業制作展で発表し、講評を行う。

面接授業について：グループワークを行う。